



東京ー広島コース16日に岡山県入り

世界を動かす草の根の運動に確信を 河重代表訴え

7月16日、2009国民平和大行進 東京 広島コースが岡山県に入りました。兵庫県との県境近くの寒河(そうご)で行われた兵庫県との引継ぎ集会には兵庫県側から80余名、岡山県から103人が参加しました。歓迎の挨拶で河重代表は「核兵器廃絶は世界の流れ、草の根の運動が世界を動かしていることに確信をもって歩きましょう」と訴えました。兵庫の梶本県原水協事務局長は「宝塚、神戸の市長が核兵器のない世界の署名にサイン、明石市が平和市長会に加盟など兵庫でも大きな変化が生まれている。世界大会に300名参加をやり遂げよう」と兵庫からの参加者を励ました。

3名の中央通し行進者、3名の県内通し行進者の紹介のあと参加者は初日のゴール、備前市役所をめざし元気に出発しました。



「諸悪の根源は 戦争」 西岡備前市長激励挨拶で強調

行進2日目の7月17日、備前市役所口ビーでこの日の出発集会。西岡市長は「私も危うく残留日本人孤児にな

るところだった。諸悪の根源は戦争、原爆はさらに最悪のもの。絶対に許せない」と参加者を激励。山崎市議会議

長、地元自治会会長の氏橋さんからも激励をいただきました。



氏橋さんは次の休憩場所まで雨の中行進に参加されました。17日は朝から雨、時折強い雨の中60名の参加者はズブ濡れになりながら行進を続けました。

昼休み休憩は瀬戸内市長船支所、午後の出発には支所の職員揃って行進団に拍手で見送りしてくださいました。

(左・瀬戸内市長船支所前での出発 上・挨拶される西岡備前市長)



一緒に歩きましょう。

私たちが通し行進者です。

左・矢部、鶴田、中平、松本、浅田の各氏
右・県内通し行進者高木、福田(後半)、谷口(前半)のみなさんです。いずれも左から。

